事業の内容

申請者名（所属/代表者名）	てらどまり若者会議～波音～　代表　木村勝一
申請事業名	寺泊港の未活用地を活かした地域の魅力・暮らしの豊かさ創出事業

１．背景や必要性

（申請事業の目的、必要性を、その地域の課題等との関連を明らかにして、具体的に記載して下さい。）

□寺泊地域の課題□

寺泊地域は、古くは北前船の寄港地として海上交通の要所となって発展し、また佐渡への流刑を待つ順徳天皇や日蓮聖人など数々の偉人が残した歴史も深い地域である。バブル期には魚の市場通りを中心に観光でも発展したが、近年では地域産業の衰退から年間２～３％の人口減少が続いている。寺泊港近郊での漁獲高は減少し、魚の市場通りの周辺を中心とした観光業も衰退の一途をたどり、2019 年には歴史的にも縁が深く 50 年余り続いてきた佐渡汽船赤泊定期航路の廃止が決定した。寺泊地域では、衰退の一途を止めるべく、まちづくり活動が行われている部分もあるが、これまでは長岡市合併以前の行政頼りのまちづくりが根強く、官民連携や住民が主体的となったまちづくりがなされていなかった。

□寺泊地域の現状□

寺泊は海の街として知られるが、地域住民、特に子ども達の海離れが近年顕著になっている。要因として、寺泊地域内の海で安全に子ども達が遊べる場所は限られており、かつ町の中心部から離れていることが挙げられる。寺泊港は町の中央に立地し、港内には防波堤に囲まれた安全な水辺が存在するが、地域からの認知度は低く、放置ボートが多数置かれているモラルのない荒れた状況で、港湾を管理する行政機関にとっても悩みの種となっている。 ※下記地図参照(事業該当エリアは緑で囲んだ円状の部分)

2021 年～2022 年に事業を実施したことを踏まえ、寺泊港の該当エリアの更なる利活用の可能性を行政へ陳情した。その結果、放置されていたボートがついに行政代執行を利用して撤去され、下の写真のように開けた元の緑地が戻ってきた。その後も、現地調査と利活用検討会を実施するなど、港の整備計画に当団体の活動や意見が反映されてきている。また、事業を実施する中で、地域内外の企業や団体との連携も緊密になってきたことで、他の寺泊地域の未活用地を活性化して欲しいと意見もいただいている。

その中で、寺泊の観光の中心部である魚の市場通り(事業該当エリアは黄で囲んだ円状の部分)に着目し、日中は賑わうが夕方以降は全く人気がなくなる夜の時間帯は未利用である事を着目し、広大な駐車場や店舗の軒先の食事スペースなどを有効活用した取り組みを実施した。このエリアでナイトマルシェを行うことで、住民同士が集い、交流の場となるキッカケを創り、それが結果として地域の魅力として地域外へ発信され寺泊に関わりたいと思える人を増えることに繋がった。

２．事業の内容

（１）クリーンアップ＆海の体験アクティビティ体験

①寺泊港内を利用した海を体感し、SDGs を楽しく学び、キャンプ体験もできるイベント

寺泊港の未利用地である緑地帯でクリーン活動を行った後に、昨年度寺泊水族博物館協力のもと作成した水生生物図鑑下敷きを参加者に配布した後に探索会を実施。下敷きにある生物も探してもらいながら探索を行うことで、より水生生物に興味をもっていただき、普段海に親しみが薄い親子から下敷きを持ってまた寺泊の海に来たいとコメントも貰えた。

昨年同様にキャプテンスタッグ株式会社の協力のもと、カヌーSUP のマリンアクティビティの体験や実際に親子で火起こしなども行うキャンプ体験も実施し、テントを設営して宿泊も行った。

協力団体は、寺泊水族博物館や寺泊漁業協同組合、寺泊マリーナは昨年度同様に連携した。それに加えて寺泊商工会青年部はイベント前後でのフィールド整備事業にも協力していただき、地元団体とも協力関係を深める良い機会になった。

日　　時	2023 年 7 月 22 日（土）9:00 ～ 7 月 23 日(日)10:00　まで
場　　所	寺泊港
参加人数	42 人（うちスタッフ　　8 人）
協力団体	キャプテンスタッグ株式会社、寺泊水族博物館、寺泊漁業協同組合、金八の湯、寺泊マリーナ、寺泊消防第一分団、寺泊商工会青年部
内　　容	・クリーン活動 ・水生生物探索会 ・マリンアクティビティ(カヌー、SUP、テントサウナ) ・キャンプ体験（宿泊体験付き） ・地元消防団による消火体験活動 ・寺泊の海の幸でおもてなし ※イベントに向けたフィールド整備事業を、年 2 回実施(5 月、7 月)

②水辺を活用した寺泊地域外の団体との交流会の開催

当団体の活動を寺泊地域内のみならず、長岡全域に活動を周知する意味も含めて、長岡市内で活動するスポーツ団体と連携して交流会を実施した。当日は、幼児をはじめ小中学生、その親まで多世代で地域間交流を図ることができた。

日　　時	2023 年 9 月 3 日（日）9:00 ～14:00
場　　所	寺泊港
参加人数	42 人（うちスタッフ２名
協力団体	新潟で水中ホッケーを推進する会、寺泊総合型スポーツクラブてらスポ！
内　　容	・クリーン活動 ・マリンアクティビティ(カヌー、SUP、テントサウナ) ※テントサウナは猛暑のため中止とした。 ・地元の食で交流会

（２） アマモ場の拡大に向けた現地実証実験

昨年に引き続き、寺泊港周辺のアマモ場の調査を専門家と共に行い、アマモの種の採取と保存熟成まで実施した。長岡市環境政策課も今年度より活動に加わり、行政からも注目される中で寺泊水族博物館や新潟県海洋研究所やアマモ保全活動専門家と年間のアマモ場保全計画を立てて推進。順調に夏場の種の採取と、昨年の種の保管熟成で失敗した教訓を活かして、水族館で保管することとなった。しかし、夏場の高水温などの影響もあり確保したアマモの種が腐ってしまい成熟することなく全滅してしまった。

水族館の屋外水槽で地下茎からの移植したアマモは順調に生存しており、種からの播種活動の難しさと近年の気候変化による影響の大きさも痛感する結果となった。また、専門家集団でない当組織の断続的な活動では、活動を軌道に乗せていく困難さが浮き彫りとなったこともあり行政とも共有した。今後は、長岡市の

ブルーカーボン事業に協力する形でこの３年間で得た関係性や経験を活かしていきたい。

日　　時　：　関係者会議　年６回、現地調査 年４回(アマモ生息地確認,活動適地確認,現地確認２回)
　　潜水による種の採取　年３回(6～7 月に実施)
場　　所　：　寺泊港(佐渡汽船フェリー乗り場、および水族館周辺の浅瀬)

（３）地域の交流の場づくり
今年度は２つの地域の交流の場づくり事業を展開した。
①

イベント名	寺泊に元気を取り戻そう！～パッシュファミリーと焚き火を囲んで異文化交流～
日　　時	2023 年 7 月 7 日（金）16:00 ～19:30
場　　所	寺泊中央海水浴場、民宿・海の家 きんとく
参加人数	20 人（うちスタッフ５名）
協力団体	長岡市国際交流協会、寺泊総合型スポーツクラブてらスポ！
内　　容	第１部 16：00～17：30　SUP・カヤック体験 第２部 18：00～19：30 焚火トーク 自転車で世界を旅するパッシュファミリーとの交流イベントを長岡市国際交流センターと協働で実施。参加者とパッシュファミリーとともに、寺泊の海でマリンアクティビティを体験し、言葉を必要としない自然を通したコミュニケーションができた。第２部では、未利用魚の浜焼きやけんさ焼きおにぎりなどの地元の食を通して、味覚という共通する五感も共有しながら焚き火を囲んで異文化交流トークを展開。参加者には非日常の体験をしながら、パッシュファミリーにとっての日常生活の一部である焚き火を囲んで異文化交流をすることができた。

②

イベント名	寺泊ナイトマルシェ
日　　時	2023 年 9 月 30 日（土）17:00 ～21:00
場　　所	魚の市場通り周辺
来場者	1,500 名（うちスタッフ 20 名、協力者 30 名）
協　　力	寺泊海岸通り魚商組合、寺泊商工会青年部、寺泊コミュニティ推進協議会、長岡造形大学福本研究室
後　　援	寺泊観光協会
協　　賛	(株)story、新潟日報(株)長岡新産店、キャプテンスタッグ(株)
内　　容	昼間と打って変わって静かな寺泊の夜。 「夜の寺泊って暗いよね」 「夜にふらっと行ける場所があったらな・・・」 年末年始のように、通りに明かりが灯ってお店と人で賑わう寺泊の夜を楽しんでもらいたい。大人はソトで楽しく、子どもたちとも一緒に楽しめる場を用意してお待ちしています。 キッチンカーや軒下屋台、雑貨の販売、キッズネイルなどのワークショップ、キッズダンスのショーを開催。 ※当日雨天のため、一部内容を変更して実施した。

（４）その他

①

イベント名	2023 年度事業の報告会
日　　時	2024 年 2 月 17 日(土)　18:00-21:00
場　　所	VILLA　VOIX
参加者	15 名
内　　容	2022 年 2 月に寺泊でオープンした宿泊施設「VILLA　VOIX」にて、2023 年度の活動の振り返りを実施。コロナで制限されたメンバー内の親交を深める久しぶりの機会となり、団体の地域での必要性や役割なども再確認することができた。また、次年度以降の活動継続について話し合い、方向性を定めた。 ※地域住民を集めての開催を予定したがコロナ第 10 波を考慮し、団体メンバーで開催

②先進的事例の視察（佐渡市　日時　2023 年 9 月 17～19 日（視察者：木村勝一、木村栄子））

目的：佐渡市内の各団体のまちづくり活動、海洋資源活用の取り組みなどの視察

＜内容＞

昨年度に引き続き、佐渡市のまちづくり視察と赤泊地域との更なる連携強化を狙いに訪問した。今回は現地コーディネターとして赤泊行政サービスセンターのセンター長より案内いただきながら、当日開催されていた「赤泊カニフェスタ」やキャンプ場などを視察した。イベント会場では、赤泊の若者が事業化した「かやの実」を使用した製菓の事業者さんと意見交換する中で、行政と地域住民がどのように連携してイベントを開催しているのか聞き取ることができた。その後、使用頻度が低く行政管理負担が増加しているキャンプ場に案内いただき、寺泊の遊休地の活用事例なども交えて意見交換を行い、最期に赤泊のビュースポットとそれを活用したイベントなどを紹介いただいた。当日伝統芸能である鬼踊りも見学し、地域文化の伝承も視察することができた。

2 日目は、昨年訪問した相川車座のまちづくりの進捗状況を確認し、互いのまちづくりにおける課題や長所を共有し合った。相川地区は佐渡金山の世界遺産認定に向けて、ハード事業の建築物が続々と開発され、民泊などの事業も増加していた。1 年でも大きな変化があり、外部資本が流入したことで一気に街が変わったとのことで、寺泊でも連携している VILLA VOIX の宿泊事業など地域外事業者のネットワークも有効活用していきたい。佐渡の真野で廃校を活用した酒蔵事業をおこなう尾畑酒造にも訪問し、地域づくりと連携した酒造りの手法も話を聞くことができた。酒造りを通して、学生や外国人などとも交流を深め、地域資源の廃校を有効活用しながら事業化している事例を通して、地域の資源をどのように活かし連携するか学んだ。

３．事業効果

・寺泊＝海洋資源が、地域住民が集える、遊べる場所へ

３年間活動を継続させたことで得た信頼関係をもとに、寺泊地域の中心とも言える魚の市場通りに対して今後の地域住民も一体となった観光と併せたまちづくりの新たなビジョンの提案を行うことができた。加えて、寺泊港の緑地帯に関しては行政代執行での放置ボートの撤去という県内でも前例がほぼない方法で、整備に向けて行政と連携して取り組むことができている。当事業を通じて未利用地や、空白の未活用時間帯を活かせば地域はより豊かな場所へ変えられることを証明し、地域の魅力の再確認をするきっかけにすることができた。それを証拠に、当団体には20～30代の若手が各プロジェクトへ参画や、長岡市内外からの大学生から研究対象に当団体が選ばれるなど、活動の広がりを実感することができている。

地域内の各企業や団体と事業協力することで、自事業の発展の可能性や地域づくりの更なる可能性を感じてくれている方も増えてきている。行政からも認知度が向上し、地域のあらゆる課題や検討事項に対して当団体が窓口となって相談を受けることが増えてきたこともあり、官民連携した地域づくりを推し進めることができている。

・ナイトマルシェの初開催による活動の広がりや地域の賑わいづくり

寺泊地域の最大の観光地である魚の市場通りを舞台に開催した「てらどまりナイトマルシェ」。日中は観光客で溢れる魚の市場通りも、営業時間終了後の夜は人気が無くなるため未活用な時間であった。初開催ということもあり、市場関係者や観光協会など綿密な打合せの上で協議を重ね、メンバー内でも企画内容の検討はもちろん、出店者としても参加することで寺泊らしいメニュー開発をして改めて地域の魅力を多くの人と共有することができた。当日は雨天だったが、想像を超える1500人以上の人手があり、当初の目的にもあげていた地域に賑わいづくりに寄与することができた。

イベント終了後のヒアリング調査でも、当日参加者の多数から「中学生や高校生など普段はイベントで見ないような世代も集まって楽しんでいた」。「年配の方々が世間話に華を咲かせる様子をみて、外部の観光客を集めるイベントが多い寺泊に、地域住民がこれだけ集まったのは過去に見たことがない」という意見をいただいたこともあり、地域交流の輪を拡げることができたが実感できた。市場関係者からは「夜にイベントをして集客できるのか」と開催前は懐疑的な意見もあったが、当日の様子をみて今後は地域の事業化できるイベントとしても可能性を感じていただけ、市場通りの新たな可能性を提示することができた。

先にも挙げた通り、当日は想定以上の来場者だったこともあり、課題はいくつか出てきたが、次年度以降も継続できるような予算や人員の確保を寺泊の関係団体や企業と協議しながら検討していきたい。

・協力、連携団体の増加

当団体は2017年の活動開始から６年経ち、地域内はもちろん、地域外からも一緒に活動したいと声をかけてもらうことが増えた。様々な協力者や団体がいなければ当該事業はもちろん、他の事業でもここまでの成果を上げることができず、活動の広がりを持たせることもできなかった。私たちが今年度より活動のビジョンとして掲げている「寺泊に住む、関わることで豊かに生きる」を達成するためにも、今後も関係各所とは協働しながら事業を進めていく。

□今年度の事業を通じて新しく連携した団体、企業□

長岡造形大福本研究室、駄菓子屋ハブ、寺泊海岸通り魚商組合、寺泊観光協会、長岡市環境政策課、赤泊行政サービスセンター、寺泊コミュニティセンター、

４．今後の取り組み

３年間の貴団体からの支援を受けて寺泊地域で活動することで、地域内外での連携とそれによるまちづくりの可能性や発展に寄与することができた。

今後は、当団体の事業を継続していくためにも予算や人員の確保を続けるために、まずは初心に帰り、門戸を広く関わる人々を増やす対話の機会をこれまでに増して企画し、深化させる部分を話し合い、改めて寺泊地域に豊かに生きる方法を関わる全ての人たちと考えながら、自分達も地域を楽しみつつ沢山の方々とここでしかできない体験や人の繋がりを共有できる場づくりを継続していく。